

令和5年度

## 入学試験問題

<視覚障害学科・手話通訳学科・リハビリテーション体育学科・児童指導員科>

### 国 語

試 験 時 間 60分

(注意)

- 1 試験官の指示があるまで、問題用紙及び解答用紙に触れないでください。
- 2 国語の問題は2頁～12頁に印刷されています。
- 3 国語の解答番号は  ～  です。
- 4 解答用紙に氏名、受験番号及び受験科目名を記入してください。
- 5 解答方法は次のとおりです。

例 [1] 埼玉県の県庁所在地として正しいものを1つ選び、記号で答えなさい。

①前橋市 ②甲府市 ③さいたま市 ④横浜市 ⑤千葉市

この[1]の正答は「③さいたま市」ですから、解答用紙の解答番号1の横に並んでいるマーク欄の中の「③」を、鉛筆またはシャープペンシルで「●」のように塗りつぶしてください。

- 6 机の上に鉛筆、シャープペンシル、消しゴム、時計(辞書・計算・通信機能のついていないものに限る)、受験票以外は置かないでください。
- 7 受験票は番号札の手前に置いてください。
- 8 マスクを着用している者は、試験官が本人を確認する間、マスクを外してください。
- 9 ハンカチ、ティッシュペーパーを使用する者は、静かに挙手をして、試験官の指示に従ってください。
- 10 試験中に気分が悪くなったり、トイレへ行きたくなった者は、静かに挙手をして、試験官の指示に従ってください。
- 11 試験問題に関する質問は一切受け付けません。
- 12 途中で退出する者は、解答用紙を机の上に置き、静かに挙手をして、試験官の指示に従って退出してください。ただし、試験開始後30分間及び試験終了前10分間の退出は認められません。
- 13 試験終了後、試験問題は持ち帰って結構です。

(問題は次のページから始まります)

【第一問】 次の文章を読んで、後の各問いに答えなさい。

この文章は、著作権上の都合により公開できません。

(出典：中村桂子著『科学者が人間であること』)

問一 空欄 ア ～ ウ に当てはまる語句の組み合わせとして最も適切なものを、①～⑤より一つ選び、記号で答えなさい。

1

- |   |      |   |      |   |      |   |
|---|------|---|------|---|------|---|
| ① | けれども | ア | つまり  | イ | たとえば | ウ |
| ② | しかし  |   | たえば  |   | なぜなら |   |
| ③ | でも   |   | こうして |   | そして  |   |
| ④ | つまり  |   | かつ   |   | ところが |   |
| ⑤ | ところが |   | それでも |   | つまり  |   |

問二 空欄 A ( ) に当てはまる表現として最も適切なものを、①～⑤より一つ選び、記号で答えなさい。

2

- ① ひたすらに
- ② あたりまえに
- ③ ひそやかに
- ④ おおっぴらに
- ⑤ とくべつに

問三 空欄 B ( ) に当てはまる表現として最も適切なものを、①～⑤より一つ選び、記号で答えなさい。

3

- ① 科学への崇信
- ② 科学への迷信
- ③ 科学への盲信
- ④ 科学への威信
- ⑤ 科学への確信

問四 次の文章は、問題文中の(1)～(5)のいずれかの箇所当てはまる。該当する箇所として最も適当なものを、①～⑤より一つ選び、記号で答えなさい。

4

科学的とは多くの場合数字で表わせるといふことです。

- ① (1)
- ② (2)
- ③ (3)
- ④ (4)
- ⑤ (5)

問五 傍線部①「よいセンサー」の機能として最も適切なものを、①

⑤より一つ選び、記号で答えなさい。 5

- ① 鼻や舌や手を使うことで食品に書かれている賞味期限が正しいのかを確認し、期限内なので食べられると判断すること
- ② 賞味期限を過ぎて生成される毒性が、嗅覚や味覚を用いることで食べても安全な成分かどうか判断できること
- ③ 五感に訴える感覚を信じて、食品に印字されている期限をどのくらい過ぎると微生物が発生するかを判断すること
- ④ 鼻・舌・手の感覚を総動員させることで、印刷された賞味期限が過ぎた食品でも、まだ食べられるか判断できること
- ⑤ ネコや犬より鈍ってはいるが、感覚を鋭くさせることで、衛生的な場所で製造されている食品かを判断できること

問六 傍線部②「自律的な生き方」の具体的な行動として誤っているものを、①～⑤より一つ選び、記号で答えなさい。 6

- ① 安全性が確認されたものが手に入るのありがたい反面、そこに書かれている科学で保障された数値だけに頼らない生き方
- ② 機械や数値だけに頼らず、まずは「日常」の感覚を大切にすることが重要であり「生きものであること」を自覚している生き方
- ③ 目覚まし時計による起床や人工照明下の生活である近代文明の暮らしを見直し、数字で管理をされている社会から脱却する生き方
- ④ 食べる、眠る、歩くといった「生きもの」としての根源的な活動の中で、一人一人が自分の「生きもの」の感覚を大切に  
する生き方
- ⑤ 「人間が生きものである」との意識や科学的な知識も用いながら、様々なものを自分自身で判断をすることで、責任を持つ生き方

問七 空欄 ( C ) に当てはまることわざとして最も適切なものを、

①〜⑤より一つ選び、記号で答えなさい。 7

- ① 人間万事塞翁が馬
- ② 一事が万事
- ③ 石の上にも三年
- ④ 一石二鳥
- ⑤ 一念岩をも通す

問八 筆者の考え方として合致しないものを、①〜⑤より一つ選び、

記号で答えなさい。 8

- ① 現代の便利さの背景には科学技術が欠かせず、人は科学による安全性を享受している。科学への知識に加えて、本来備わっている感覚を活用するのが「生きもの」であることへの生き方の第一歩である。
- ② 便利さや効率を優先し、自然離れた人工環境が進んでいく中で人間は「生きもの」の感覚を失ってしまった。人間は「生きもの」であり、自然の中にあるという事実を足場に、自然、人間、社会の在り方を問い直し、科学や機械に依存しすぎない生活を送ることが必要である。

③ 生きものとして「生きる」ことの基盤は、日常的な生活者としての感覚を持ち自然と向き合うことが重要である。自然、人間、社会の関係を見直すために、太陽光や風力発電への転換も課題となってくる。

④ 「生きもの」そのものを見ようとする視点が欠けているため、現代人、特に大都市では自然の中の日常を実感できなくなっている。このような環境の中でも人間は「生きもの」であることを忘れないように、小さなことでも「生きもの」の感覚を活用することが大事である。

⑤ 文明の発達により、自分で安全性の責任を持つことが無くなったが、科学による保証を丸ごと受け入れるのが正しい生活ではない。人間は本来の「生きもの」として感覚的に分かる力をより活用すべきだ。

【第二問】 次の文章を読んで、後の各問いに答えなさい。

この文章は、著作権上の都合により公開できません。



(出典：鷺田清一『つかふー使用論ノート』小学館刊)

問一 空欄 ア ウ に当てはまる語句の組み合わせとして最も適切なものを、①～⑤より一つ選び、記号で答えなさい。

9

- |   |      |       |      |
|---|------|-------|------|
| ① | むしろ  | たたとえば | けれども |
| ② | それとも | 一方    | また   |
| ③ | 一方   | 次に    | むしろ  |
| ④ | しかし  | むしろ   | つまり  |
| ⑤ | また   | まず    | ところが |

問二 空欄 A ( ) に当てはまる表現として最も適切なものを、

①～⑤より一つ選び、記号で答えなさい。 10

- ① 屈折した力関係
- ② 非対称な力関係
- ③ 一定した力関係
- ④ 基礎的な力関係
- ⑤ 主体的な力関係

問三 空欄 B ( ) に当てはまる表現として最も適切なものを、①～⑤より一つ選び、記号で答えなさい。 11

- ① 「主体」も「客体」も境界線がなくなるのである。
- ② 「じぶん」という「主体」を発見するのである。
- ③ 「主体」と「客体」という隔たりが生まれるのである。
- ④ 「親」という「客体」が消失してしまうのである。
- ⑤ 「親」が存在している事実が安心に繋がるのである。

問四 傍線部①「これ」が指す内容として最も適切なものを、①～⑤

より一つ選び、記号で答えなさい。 12

- ① 「客体」となるのは、使われる道具であるという意識
- ② 「使用者」と「使われる物」との分離が生まれること
- ③ 道具は「わたし」に「使われる物」であるという認識
- ④ 「わたし」が「客体」である哺乳瓶を支えていること
- ⑤ じぶんの指先が「わたし」の一部であるという意識

問五 傍線部②「そういう意味で『一般的』なもの」の内容として最も適切なものを、①～⑤より一つ選び、記号で答えなさい。

13

- ① 「書く」という〈式〉が浸透しなくても、本能的な「書く」という行為はすぐにも行える状態を「一般的」と表現している。
- ② 「書く」という〈式〉が身体はどこかに定着すると、定着した箇所のみで「書く」という行為ができる状況を「一般的」と表現している。
- ③ 「書く」という〈式〉がいったん定着しても、身体の一部でも容易に「書く」という感覚が得られないことを「一般的」と表現している。
- ④ 「書く」という〈式〉が浸透すると、書く道具や場所が違って同じ文字をすぐに書くことができる状態を「一般的」と表現している。
- ⑤ 「書く」という〈式〉が定着すると、手以外の身体部分でも、練習をすれば道具や場所が変わっても文字が書ける様子を「一般的」と表現している。

問六 本文の内容から正しいといえるものを、①～⑤より一つ選び、記号で答えなさい。

14

- ① 幼い頃から「いない、いない、ばあ」を繰り返すことで、「親」は向こうに、「じぶん」はこちら、といった分離の意識を獲得する。このような遊びをしていると「主体」と「客体」の分離が早く意識できるようになる。
- ② 乳児が遊びを通じて「親」と「じぶん」が別の存在であることを理解する。このように使う物と使われる者との分離が生まれるには、まずは自らの意志をはっきりさせ行為の〈式〉を身につけなければならない。
- ③ 肘や肩の関節を動かしてどこでも書けるように練習する。このような習得が難しい行為でも、いったん「主体」と「客体」の分離が生まれると、「書く」という行為の式が容易に定着する。
- ④ 書くという行為ができるようになると、身体どこでも書くことができる。このような「使用」の前提として、使う物と使われる者との分離があり、行為の〈式〉を身につけることで各部位で同じ行為ができる。
- ⑤ 乳児は哺乳瓶を掴もうと試行錯誤を繰り返し、握る能力を身につける。このような式を身につければ、使う物と使われる者との分離が容易になり、さまざまな行為が反復可能となる。

【第三問】問一～問四に答えなさい。

問一次の(ア)～(エ)の漢字の読みとして最も適切なものを、それぞれ①～⑤より一つずつ選び、記号で答えなさい。

(ア) 強面 15

- ① きょうめん
- ② つよおもて
- ③ こわもて
- ④ きょうづら
- ⑤ ごうめん

(イ) 出納 16

- ① しゅつとう
- ② しゅつとう
- ③ すいとう
- ④ すいのう
- ⑤ でのう

(ウ) 歪曲 17

- ① わんきよく
- ② えんきよく
- ③ えいきよく
- ④ わいきよく
- ⑤ ひずみ

(エ) 垂涎 18

- ① すいがん
- ② すいえん
- ③ じょうえん
- ④ すいぜん
- ⑤ じょうぜん

問二次の(ア)～(エ)の傍線部と同じ漢字を用いるものを、それぞれ①～⑤より一つずつ選び、記号で答えなさい。

(ア) 彼は行政機関で働いている。 19

- ① 探査機が月にキカンした。
- ② 交通キカンが発達している。
- ③ 自宅待機のキカンが過ぎた。
- ④ 胃は食べ物を消化するキカンだ。
- ⑤ 彼女のキカン支炎が治った。

(イ) 機械を点検する。 20

- ① インターネットで資料をケン索する。
- ② 料理の経ケンが豊富な人だ。
- ③ 光熱費をケン約して貯金をする。
- ④ 喧嘩をしてケン悪な雰囲気だ。
- ⑤ 真ケンな表情で話を聞く。

(ウ) この店には格別な料理がある。

21

- ① 事件のカク心に迫る。
- ② 彼は資カク試験の勉強中だ。
- ③ 人との間カクを空ける。
- ④ カク悟を決めて旅に出る。
- ⑤ 新しい企カクを考える。

(エ) 代金を分割して払う。

22

- ① 隣の国の管カツだ。
- ② 運動会でカツ躍する。
- ③ 会議が円カツに進んだ。
- ④ 作家になることをカツ望する。
- ⑤ 資料の一部をカツ愛する。

問三 次の(ア)・(イ)の四字熟語の意味として当てはまるものを、

①～⑤よりそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

(ア) 鶏口牛後 23

(イ) 付和雷同 24

- ① うわべだけの言葉で、心や中身がそなわっていないこと
- ② 大きい集団の末端より、小さい集団の上にいるほうがよいこと
- ③ 人のいうことを気に留めず、知らない顔をして聞き流すこと
- ④ 強い者が機会をねらって、相手の形勢をうかがっていること
- ⑤ 自分にしっかりとした考えがなく、他人の言動にすぐ同調すること

問四 次の(ア)・(イ)の慣用句の意味として当てはまるものを、

①～⑤よりそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

(ア) 爪に火を点す 25

(イ) 煮え湯をのまされる 26

- ① 貧しく苦しい生活をしていること
- ② 仕事などをいいかげんにすること
- ③ 忙しくて多くの人手が必要なこと
- ④ 信用していた人に裏切られること
- ⑤ 敵からひどい目に遭わされること

国語 正答表

問題番号	解答番号	正答	配点	問題番号	解答番号	正答	配点	問題番号	解答番号	正答	配点					
第一問				第二問				第三問								
問一	1	②	5	問一	9	④	5	問一								
問二	2	②	5	問二	10	②	5	(ア)	15	③	2					
問三	3	③	5	問三	11	③	5	(イ)	16	③	2					
問四	4	②	5	問四	12	②	6	(ウ)	17	④	2					
問五	5	④	6	問五	13	④	6	(エ)	18	④	2					
問六	6	③	6	問六	14	④	6	問二								
問七	7	②	5				小計	33	(ア)	19	②	2				
問八	8	③	6									(イ)	20	①	2	
			小計										(ウ)	21	②	2
			43										(エ)	22	⑤	2
								問三								
								(ア)	23	②	2					
								(イ)	24	⑤	2					
								問四								
								(ア)	25	①	2					
								(イ)	26	④	2					
											小計	24				